

次世代の扉を開くIT企業

ダイナミッククス(株)

ストレージ専業ベンダーとして活動34年目を迎える。長年の実績で築き上げた人脈で海外の最新製品を発掘し、日本市場向けにローカライズして提供してきたが、今年からは「サブス領域に力を入れる」と、新たな方向を見据えている。次世代型のストレージベンダーを目指すコンピュータダイナミッククスの坂本寛社長に、今後の事業展開を聞いた。



坂本 寛 社長

「昨年はいかがでしたか。坂本 売上は前年度比で10%伸びており、数字面は順調に推移しました。ただし市場をみると、クラウドコンピューティング時代の到来により、ストレージに求めら

れる容量自体は増加しているものの、逆に単価はそれ以上に下がっているため、相対的にハード領域でのビジネス市場は縮小しています。そこで我々も、クラウド時代を意識してサブスビジネスに少

しずつ軸足を移し、そのための仕組みが整い、実績も出始めた1年だったといえます。具体的にはどのような動きがありましたか。

坂本 現在の主力製品として、米Zadara社製の仮想化ストレージシステム「CD S-SVM9000」があります。高速のSSDと大容量ディスクを組み込んだ、スケールアップとスケールアウトが可能

なSANおよびNASシステムをクラウドで提供するものですが、従来型のオンプレミス型に加えて「ストレージクラウド:SaaS(ストレージ・アズ・ア・サービス)ソリューション」として、複数の提供方式を用意しています。ユ

ーザのニーズに併せてプライベートクラウドやハイブリッドクラウド、さらにはアマゾン



IT系・プライベートとイベントへの参加でユーザーとの接点を大切にしている

環境との併用となるマルチクラウド方式を用意しました。そのほかにも、お客様環境にストレージサブを導入し、使った分だけ課金するという、オンプレミス・アズ・ア・サービス(OPaaS)という独自サービスも実施しています。実績面では、熊本県山鹿市役所

でシンククライアント活用型の自治体クラウドシステムに採用されてシステムが稼働、そのほかにも鹿児島県肝付町でシステムが採用されるなどの動きがあり、今年は今

サブスビジネスを強化 次世代総合ストレージベンダーへ

ラウド化ニーズの高い自治体向けに積極的に事業展開を図ります。

「新規分野での動きは、坂本 一昨年から、4Kや8K映像編集対応で大容量データや高速処理が求められる、映像分野向けのストレージソリューションを本格展開し、着実に実績も出ています。昨年は新製品として、既存のハイパフォーマンス製品「CD S4004」のほかに、最大12000MB/sの高速パフォーマンスに対応した8K非圧縮編集が

可能な「CD S-SVM6804」を投入します。この製品領域では、映像、放送、アニメ、エンターテインメント、医療、出版・印刷といった業種に加え、スマートフォン向けのアプリサービスとして、リアルタイムに大量なデータを分析・処理するためのニーズや、映像監視や海図作成といった広いニーズが見込めます。SSDフラッシュアキュセラレーターの新版「PB LAZEV」も含めて事業を広げていく計画です。

利用する環境に併せてハードのサイズや振動・熱対策を考慮し、カスタマイズして提供します。ほか

に最新磁気テープストレージ規格の「LTO7」を採用したバックアップソリューションを昨年発売しましたが、テープも底堅いニーズがあるという印象です。

「製品とサブスの両軸展開で今後は総合力が問われます。坂本 ストレージ製品販売以外にも、お客様の環境で活用しやすいようなブリッジソフトウェアの開発や、導入後のオペレーション・点検といった保守、サブやスイッチなどの調達代行といった具合に、お客様のニーズに総合的にこたえる御用聞き的な「ワンストップストレージサービス(OSS)」を前面に押し出してきました。今年はそのための芽が出てきたので、今年はお出してきた芽を育てていきます。

1982年1月設立、代表取締役社長・坂本寛。資本金2700万円、従業員50名、売上高12億円(2016年1月見込み)、事業内容は、ストレージシステムの企画、販売、構築、関連ソフトウェア開発、保守サポート、クラウドサービスなど。